東洋大学企画展

TOYO UNIVERSITY EXHIBITION

第 86 回東京箱根間往復大学駅伝競走総合優勝
東洋大学陸上競技部の紹介

写真提供 / 月刊陸上競技

東洋大学陸上競技部は、昭和 2（1927）年に創部され、6 年後の昭和 8（1933）年の第 14 回箱根駅伝に初出場を果たす。このとき、参加校 11 大学中 10 位の成績だった。その後昭和 15（1940）年の第 21 回大会まで 8 回連続出場し、あいだ 2 大会をはさみ昭和 23（1948）年の第 24 回大会から平成 3（1991）年の第 67 回大会まで 44 回連続出場を記録する。
通算すると、出場回数は 60 回を超え、歴代 5 位を誇るものの、昭和 35（1960）年の第 36 回大会に於いて総合 3 位が最高成績で、往路・復路それぞれの優勝経験もなかった。

平成 14（2002）年春、シドニーオリンピックマラソン代表・川嶋 伸次氏を監督に迎え、基本の徹底・学業と競技生活の両立を掲げる「川嶋イズム」で強化を図った。

それから 7 年目の平成 21（2009）年第 85 回箱根駅伝で初優勝と共に、初出場から 77 年目、出場 67 回目での悲願の総合優勝は、長い箱根駅伝の歴史の中でも稀にみる完全優勝、それも史上 15 校目となる栄誉でもあった。

そして新たに始まった“鉄紺の歴史”が、第 86 回箱根駅伝で昨年に続き往路優勝と総合 2 連覇という形でその名を箱根駅伝史に刻むこととなった。